

# 神奈川県小田原市における「まち語り」「懐古新聞」の取り組み

～まちづくり・オーラル・ヒストリー研究 その1～

正会員 田口 太郎1\*  
同 後藤 春彦2\*\*  
同 山崎 義人3\*\*\*

オーラルヒストリー 専門家の抜けた後 継続的活動展開  
原風景の共有ツール 「まち語り」 「懐古新聞」

## 1 研究の背景・目的

近年、様々な地域におけるまちづくりの現場に専門家や学生など地域外部の主体が積極的に関わるにより多くの成果が上げられてきた。このように専門家などの主体がまちづくりに関わることは重要であると言われている<sup>注1)</sup>。しかし、重要である専門家もいずれは地域を去らざるを得ないため、専門家抜きでの住民独自のまちづくり活動の継続的な展開も同時に検討する必要がある。また、大学などによる調査が各地で行われているが、それらの調査成果がその後のまちづくり活動に活かし切れていないという課題もある。

神奈川県小田原市では、小田原市政策総合研究所<sup>注2)</sup>の研究活動の一環として大学など外部の主体が参画した<sup>注3)</sup>まちづくりが行われている。ここでも他の地域と同様に外部の主体が抜けた後の住民独自のまちづくり活動の展開を模索する必要がある。

そこで、本研究では小田原市において2001年度から行われている「オーラルヒストリー調査」<sup>注4)</sup>に着目し、それを活用した「まち語り」「懐古新聞」の住民独自による継続的な活動展開の可能性を検討することを目的とする。

## 2 既往の研究と本研究の位置づけ

オーラルヒストリーの試みは主に政治学分野で多くなされてお<sup>注5)</sup>、その手法は確立しつつあるといえる。社会学分野においてはライフヒストリーに着目した研究が多くなされている<sup>注6)</sup>。建築・都市計画分野におけるオーラルヒストリーの試みは山崎らによるオーラルまちづくりヒストリーを通じたまちづくりレビューの試み<sup>注7)</sup>などがある。しかし、これら各分野におけるオーラルヒストリーの試みはまだ、研究の領域にとどまっており、一般的な運動論への展開はなされていない。また、聞き書きの運動論的展開の事例としては山梨県早川町の「2000人のホームページ」<sup>注8)</sup>などの活動が挙げられるが、これも現段階ではホームページによる公開、あるいはそれを印刷したものの展示にとどまっている。

本研究はオーラルヒストリーを研究の一手法という位置づけから発展してまちづくりの活動手法の一つとしての確立を目指したものである。

## 3 研究の方法

2001年度、2002年度に神奈川県小田原市で小田原市政策総合研究所の調査として行われたオーラルヒストリー調査をもとにその活用案として、「懐古新聞」「まち語り」を

実施し、その活動の可能性を検証した。

### 3-1 「まち語り」の概要

「まち語り」とはまず、個人のオーラルヒストリーを個人を紹介する写真や音とともに5分～10分程度朗読し、その後ファシリテーターの進行に従って参加者全員で朗読された内容を手がかりに当時の思い出を語り合うことで、参加者全員でまちの原風景の共有を図るもの。

### 3-2 「懐古新聞」の概要

「懐古新聞」とは、オーラルヒストリー調査によって収集されたオーラルヒストリーを年代別に整理し、各年代毎に新聞調にまとめ、一般の人でも読みやすい形式に再編集したものの。



「まち語り」



「懐古新聞」

## 4 継続的な活動展開の可能性

### 4-1 「まち語り」の可能性

「まち語り」では、小田原のなりわいの担い手のオーラルヒストリーの朗読をきっかけとした座談会において、当時のなりわいの様子や、それに伴う風景の様子の話題が多くだされ、当時の様子をうかがい知ることが出来、原風景を共有するためのツールとしての「まち語り」の可能性が伺えた。

また、「まち語り」を初めて実施した2002年3月のまちづくりイベント「交流の舞台 板橋・蔵かふえ」<sup>注9)</sup>の後、住民の間から自主的に「まち語り」を行いたい、という希

表1 実施した「まち語り」の内容

実施日	対象者	業種	朗読された内容	座談会で話した内容
2002.3.30	下田豆腐店	豆腐店	豆腐屋の変遷・お祭りのにぎわいetc.	お祭り時は地元の子どものが迷子/お祭りにだけ出される豆腐etc.
2002.3.30	広瀬堂店	畳店	畳屋の仕事の仕方の変遷・相手先の話etc.	畳が干される風景/職人の仕事ぶりetc.
2002.3.30	旧内野醤油店	旧醤油店	内野醤油の歴史/網代沖地震etc.	内野醤油周辺の臭いや音、その境界の様子etc.
2002.10.5	内田木象嵌製作所	木象嵌	職人のこだわり、境界の様子etc.	職人の数や技術の変遷、他の職人の様子etc.
2003.2.22	早瀬幸八商店	ひもの店	子どもの頃の遊びや西湘バイパスの建設に伴うまちの変化etc.	当時の遊びの種類や場所、子どもの食べ物、周辺の音etc.

望があがった。そのため、その後住民とともに「まち語り」を実施し、2003年度にはその基礎調査であるオーラルヒストリー調査を住民と学生で行い、調査と調査成果の活用までの全行程の技術移転<sup>注10)</sup>を行った。今後は住民の自発的な活動としての展開が期待できる。

#### 4-2 「懐古新聞」の可能性

「懐古新聞」は「まち語り」と同様に2002年3月のイベントの際に小田原市における「関東大震災～終戦」の時代区分についての新聞を作成し展示、後に配布した。その結果多くの人々が興味深く読み、当時の漁業の話などのきっかけとなった。このことから「懐古新聞」もまた、過去の様子のお話を引き出すツールとしての可能性が伺えた。

また、その後新たな「懐古新聞」の発行願いが多く寄せられ、この編集形態によるオーラルヒストリーの一般への還元の可能性があると見える。

表2 「懐古新聞」の内容と見出し

内容	「懐古新聞」での見出し
東海道本線 開通	・丹那トンネル開通 ・小田原駅の発展 ・都市構造も変化
漁業	・小田原の漁業、大きく発展 ・波が大きく犠牲者も
なりわい	・当時の丁稚奉公 ・山師という材料屋 ・職人のまち板橋
太平洋戦争	・「さざなみ会」が慰問写真 ・空襲の中でも護ったアルバム
開発	・お城のお堀が埋まる!?
他	・解説 ・オダモンくん(4コマ漫画) ・なりわいクロスワード

#### 4-3 支払い意志額調査

2003年2月22日に行った「まち語り」の際には、「懐古新聞」も併せて配布し、その支払い意志額調査<sup>注11)</sup>を行った。その結果を表3に示す。

表3 支払い意志額調査の概要と結果

アンケート概要		懐古新聞	まち語り	
配布、回収法	現場配布、現場回収	平均値	¥516.7	¥125.8
参加者	24名	最高値	¥1,000	¥300
有効回答	12	最低値	¥100	¥50
回答率	50%	最多値	¥1,000/¥500/¥100 1	¥100 2

1;各3評ずつ 2;6評

この結果から、今後「まち語り」を実施する際にはおよそ500円の参加料を徴収することが可能と思われ、「懐古新聞」については100円での販売が可能であることが伺える。しかし、今後のこれら活動の継続的な実施に当たっては、調査時の人件費や「まち語り」に際する機材のレンタル費用など多大な費用がかかることが想定され、参加者を20名程度が限界である「まち語り」については厳しい結果といえる。「懐古新聞」については広告収入により制作費を得るなどの可能性もあり、継続的な展開の可能性があると見える。

#### 5 課題と展望

これらの結果をふまえて、今後の継続的な展開の可能性を考察する。「まち語り」についてはその需要はあるものの、費用の面で課題が残ったといえ、今後は様々な分野の専門性を有する市民活動を巻き込むことにより、金銭のかからない活動の展開方法を検討する必要がある。「懐古新

聞」については費用面では継続的な展開の可能性があると見えるが、実際にはその編集技術を有する人材を地域住民の中から確保する必要性や編集に膨大な労力がかかるなど、技術的な課題が残る。しかし、技術的な問題がクリアされれば、コミュニティ・ビジネス化への展開可能性があると見える。

支払意志額調査の回答数12というのも少ないことから、今後も継続して支払意志額調査を行う必要があり、加えて満足度調査などの評価を行いながら内容のブラッシュアップを続けていく必要がある。

さらに「まち語り」「懐古新聞」の他にもオーラルヒストリーの活用は多数考えられ<sup>注12)</sup>、それら他の活用法と一体化し総合的に採算のとれるしくみとしていくことにより、最終的には住民独自による継続的な活動の展開が可能となると見える。

#### < 注釈 >

注1) 文献1)により、まちづくりにおける専門家の役割の重要性が述べられている。

注2) 神奈川県小田原市に2000年に設立された自治体シンクタンク (<http://www.city.odawara.kanagawa.jp/piro/>)

注3) 小田原市政策総合研究所の「小田原遺産調査」において、工学院大学、東海大学、東京大学、早稲田大学の各大学が共同調査を行った。文献2) 参照。

注4) 2001年度は小田原市政策総合研究所の「小田原遺産調査」の一環として早稲田大学により小田原のなりわいの担い手36名を対象としたオーラルヒストリー調査を行った。2002年度はオーラルヒストリー調査の技術移転を行いながら「街かど博物館」6館に対しての調査を行った。

注5) 例えば文献3) など

注6) 例えば文献4) など

注7) 文献5) 文献6)

注8) 山梨県早川町の日本上流文化圏研究所では住民全員に対してヒアリング調査し、ホームページに掲載する「2000人のホームページ」プロジェクトを行っている。

(<http://www.town.hayakawa.yamanashi.jp/2000/>)

注9) 2002年3月30日、31日両日に小田原市板橋において東京大学によって「小田原遺産調査」による遺産の活用実験として企画された社会実験イベント。既存の蔵を利用したオープンカフェが開催され、蔵の内外で様々なプログラムが行われた。

注10) 2002年度は住民にもオーラルヒストリー調査を可能とすべく、早稲田大学と共同で調査から「まち語り」までのすべて行程を共同で行い、今後の住民による独自の展開の方向付けを行った。

注11) アンケートでの質問項目は「まち語りに参加するのはいくらなら払いますか?」「懐古新聞はいくらなら買いますか?」の2項目。

注12) 他には写真や映像とともにオーラルヒストリーを流すCD、DVDなどの可能性がある。

#### < 参考文献 >

文献1) 中村文他 「まちづくりにおける『生活イメージ』と『地域イメージ』の具現化(その1)(その2) 日本建築学会大会学術講演梗概集 p.933-934,p.935-936 2001.9

文献2) 小田原市政策総合研究所 「小田原スタディ第2号」 2002.5  
文献3) 政策研究大学院大学 「政策とオーラルヒストリー」 中央公論社 1998.3

文献4) 中野卓 他 「ライフヒストリーの社会学」 弘文堂 1995.2  
文献5) 山崎義人 他 「愛知県足助町におけるオーラルまちづくりヒストリーの試み」 日本建築学会大会学術講演梗概集 p.631-632 2000.9

文献6) 後藤春彦 「まちづくり批評」 ピオシティ 2000.7

\* 早稲田大学都市・地域研究所客員研究助手・工修  
\*\* 早稲田大学理工学部建築学科教授・工博  
\*\*\* 早稲田大学理工学総合研究センター助手・工修

\* Visiting Research Assoc., Waseda Institution of Urban and Regional Studies, M.Eng.  
\*\* Prof., Dept. of Architecture, School of Sci. and Eng., Waseda Univ., D.Eng.  
\*\*\* Assoc., Advanced Institute for Sci. and Eng., Waseda Univ., M.Eng.